

鵜殿のヨシ原におけるヨシの生育状況調査(暫定版)

TKK 自然観察会代表 田口圭介
高槻市街にぎわい部農林緑政課

調査概要

調査の目的

雅楽協議会が実施するつる草抜き作業が、ヨシの生育環境にどのような影響を与えているかを把握し、ヨシ原全体の再生につながる管理の在り方を模索するために調査を実施する。

調査区域

つる草抜き実施エリア内の A 区域の上流部 及び B 区域の上流部
(別図参照)

調査本数

A 区域：50 本、B 区域：50 本 合計100 本

※調査するヨシは、原則ランダムとするが、可能な限り同一個体を調査する

調査項目

- ①草丈
- ②茎径（地上面から約15cm程度の高さ）

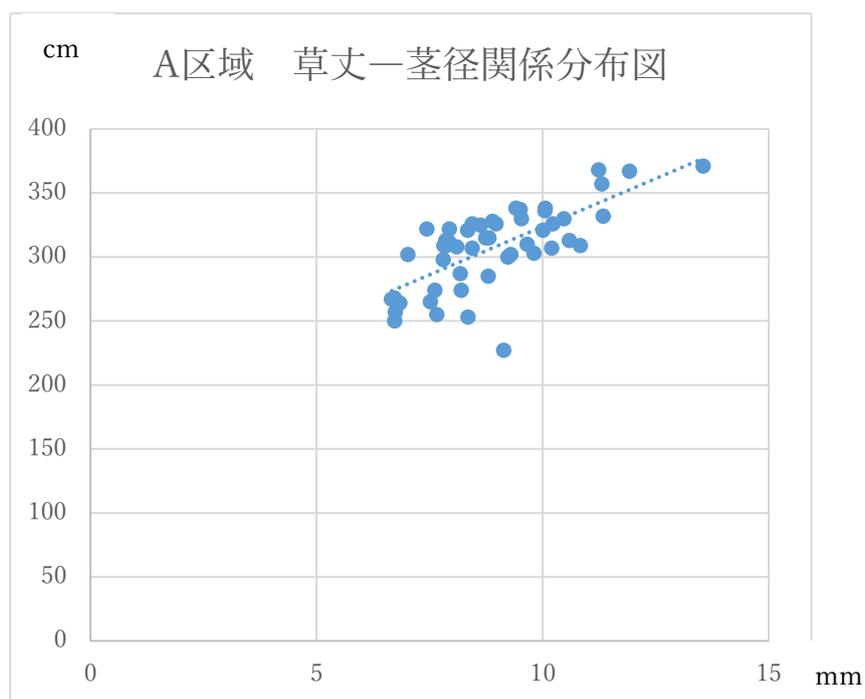
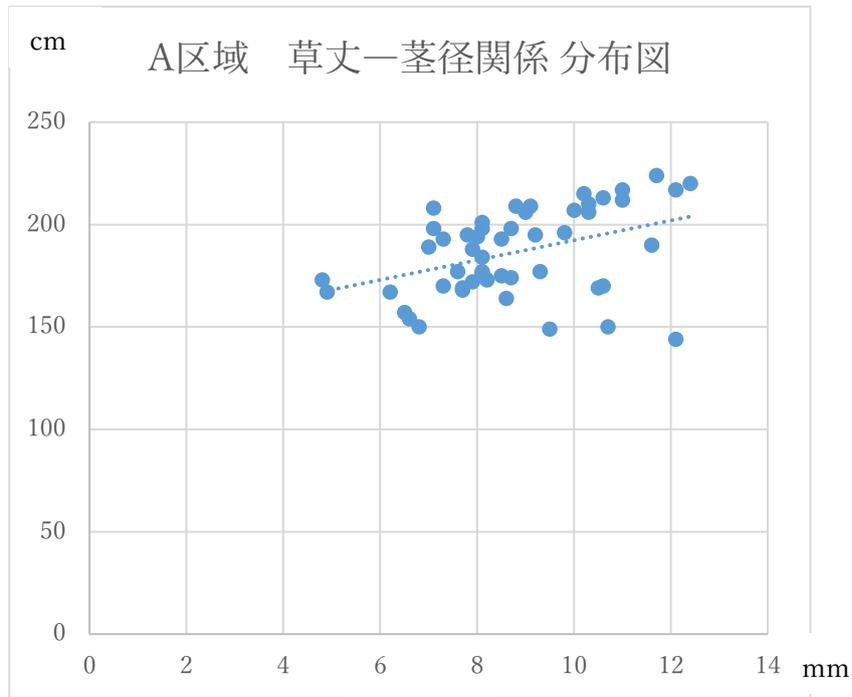
調査日

令和4年5月～10月（月1回）

調査結果

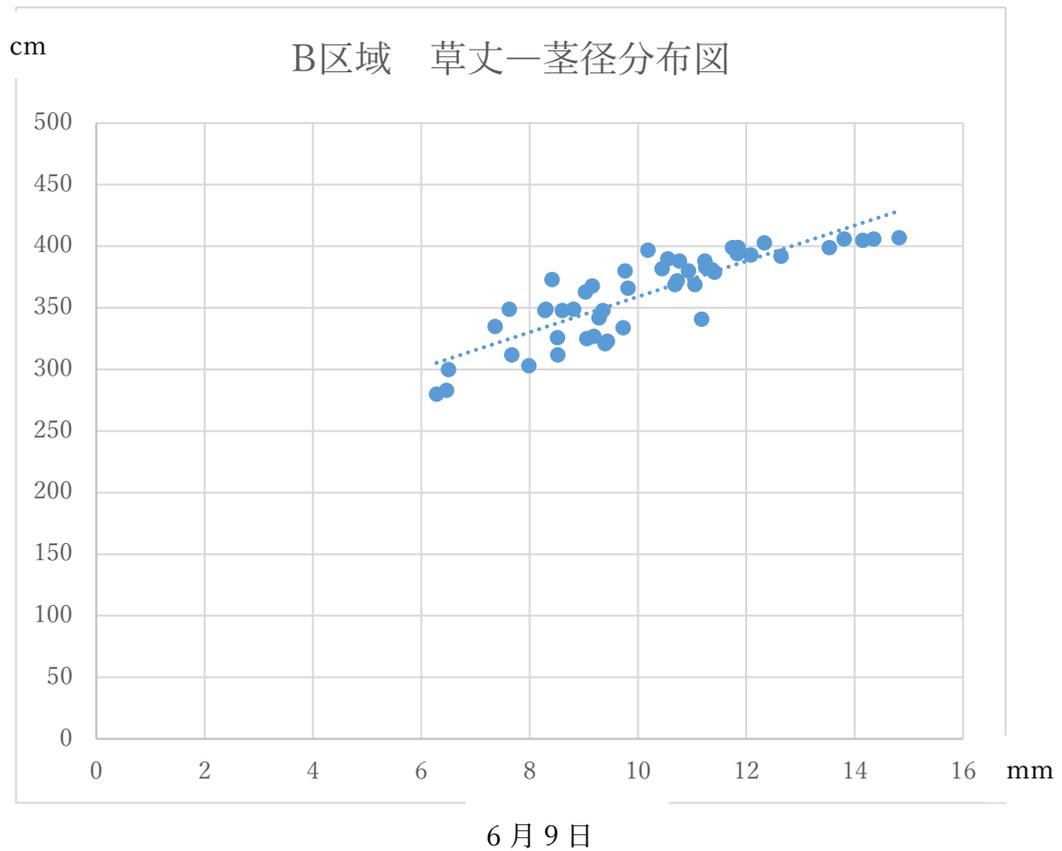
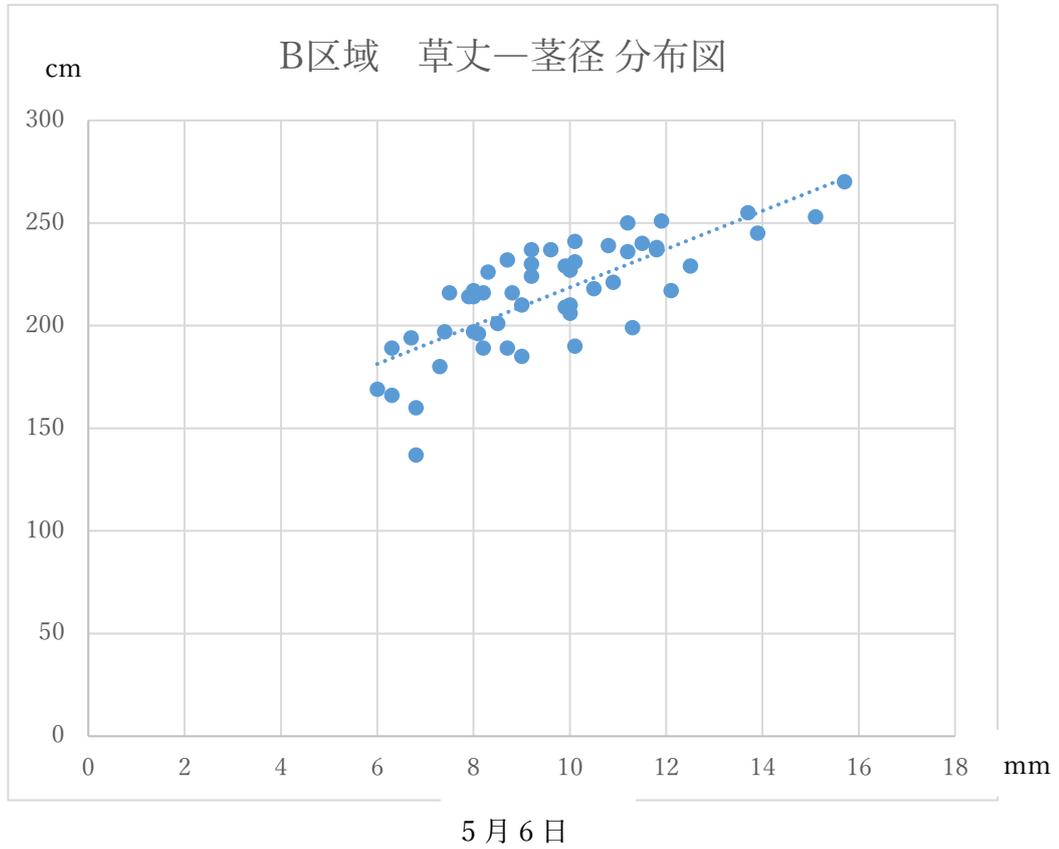
A 区域

調査日	草丈(cm)				茎径(mm)			
	平均	最大	最小	中央値	平均	最大	最小	中央値
5月6日	186.4	224	144	189	8.78	12.4	4.8	8.5
6月9日	307.6	371	227	311	8.93	13.6	6.7	8.8
7月6日								



B 区域

調査日	草丈(cm)				茎径(mm)			
	平均	最大	最小	中央値	平均	最大	最小	中央値
5月6日	215.3	270	137	217	9.64	15.7	6	9.2
6月9日	361.7	407	280	369	10.18	14.8	6.3	10.0
7月6日								



調査による考察

- ・草丈が高い方が、茎径は太い（草丈と茎径は比例関係がある）
 - ・A区域のヨシよりもB区域の方がヨシの草丈が高く、茎径が太い
 - ・草丈は著しく成長するが、茎径の成長はあまりみられない
- 草丈は約1か月で平均1m20cm以上伸びている（5月から6月にかけて）
- 茎径は約1か月で平均約0.5mmしか太くなっていない（5月から6月にかけて）
- ・5月6日の調査では、茎径が11mm以上のヨシが、A区域の50本中7本（14%）、B区域の50本中13本（26%）であった。
 - ・6月9日の調査では、茎径が11mm以上のヨシが、A区域の50本中5本（10%）、B区域の50本中17本（34%）であった。

※つる草抜き作業によるヨシの生育環境について

- ・つる草による阻害要因が除去されたことにより、つる草抜きエリア内のヨシは順調に生育しているように見える。一方、つる草抜きエリア外のヨシは、カナムグラやヤブガラシなどのつる草に巻かれ、一部では倒されそうな状況である。
- ・つる草抜きエリア内の一年草であるカナムグラについては、除去作業により、当初生えていたものは消失していると思われる。
- ・一方、つる草抜きエリア内のヤブガラシについては、地上に伸びてきている部分の除去作業を行ったが、地下に根があるため、その後も生育し、ヨシなどに巻きついている状況が至るところで確認されている。しかし、ヨシをなぎ倒している箇所はほとんど見られない。
- ・その他のつる草では、ヒルガオがヨシに巻きついていて、巻きつきも強いように思える。
- ・ヨシはカナムグラだけでなく、ヤブガラシやヒルガオなどの様々なつる草の複数の力によってなぎ倒されるリスクが存在しているように思われる。
- ・オオブタクサは非常に成長スピードが速く、ヨシと同等、もしくはそれ以上の高さに成長することもある。また、オオブタクサは生息している場所と生息していない場所がわりとはっきりしている。